

オレンターノPRESS



2025 SEASON



明確な基準に沿った 自由なプレーでJ2昇格へ



監督 大島 康明

Q. FC岐阜の監督就任を決断した決め手はなんだったのでしょうか。

A. マイボールをすごく大事にしているFC岐阜が、成績によってスタイルを変えずに進むだけの覚悟を持っているクラブだということに、すごく心を打たれたことが大きな理由です。

Q. 昨年の課題であった波のある試合内容につながるメンタリティについて監督の立場ではどういう改善を施そうとしていますか。

A. 選手たちには、自由にプレーするためにルールがあり、基準がない中の自由はカオスなんだよという話をよくしています。その点、監督としては、選手たちにより多くの自由を与えるための明確な基準を与え続けることによって、サッカーを通してメンタル面へのアプローチを図っていく。練習でもキツイ状況がありますが、それでも自分たちのスタンドは変わらないということを染み込ませる作業をやっていきますし、それによって意図的に、いかなる時でも基準を保ち続けるというメンタリティを作っていくとしています。

Q. クラシック音楽では譜面と指揮者の指揮に沿って個々の奏者が優れた技巧を発揮し、勝手に楽器を弾くことはありませんが……。

A. 表現の仕方は違えど、全くそれと同じイメージでやっています。一定の基準に沿って仕事ができるようになると選手の個性がより発揮しやすくなるので、選手の価値も上がりますし、チームとしての積み上げにもなります。

Q. 2025シーズンのFC岐阜には様々な個性の選手が集まっていますが、彼らをどう組織化していけばよいのでしょうか。

A. 年齢層も相当若くなっている中にキャリアを持った選手たちが数名入ってくれていて、彼らをさらに成長させることによって、チームを強くできるスカッドであると思っています。ただ、サッカーはいい選手を獲ってきてそのまま配置すれば勝てるというものではなく、やはりチームとしての力を、1足す1を2にするに留まらず、1足す1を5にしていけるには、ピッチでの規律と

自分たちの共通認識というものがすごく重要になるスポーツだと思います。ゴルフだったら、バターも使うし、ドライバーも使うし、アイアンも使う、それは1コースを成立させるために必要なことですね。サッカーも巧い選手を11人並べればいいというスポーツじゃなくて、チームとしていかに機能させるかが重要です。私は後から出る選手のことをゲームチェンジャーと言っていて、サブではありません。それに特化した、ゲームチェンジャーのほうがより力を発揮できる選手もいますし、スタートのほうが向いている選手もいますし。チームがどう勝つかという方向性を示して選手たちをまとめるマネージメントに関しては正直、私はストロングな部分を持っていると自覚しているので、そのように選手を活かしていきたいと考えています。

Q. チームの成長をどのように思い描いていますか。

A. 最初は戦い方を染み込ませる作業をしていて、選手たちに大枠を掴んでもらっています。その大枠を捉えられるようになってきたら、次はより細部の要求を入れていきます。リーグ戦を通して早い段階で細部を詰めて、ここのフェーズを超えると、おそらく選手が自分たちで枠を抜けていけるようになるので、そこまで到達すると、戦術に沿ってはいりますが、スムーズに連動してのびのびとプレーするが故に、まるで選手たちが自由にやっているかのように見えると思います。

Q. 1年間のレースの運び方についてはどう考えていますか。

A. 開幕から最後まで上にいるのがベストな状態ですね。目指すものはやっぱりそこです。その上で、浮き沈みがあった時に、連敗をしないこと、深みに嵌まらないことがすごく大事です。1つ星を落としたりしても、1つ落とすだけで次からまた勝ちを重ねていけば常に上のブロックに居続けられると思うので、夏以降にもそのブロックにしっかりと入りながら、ラスト、右肩上がりに成長するチームを作り、頂点のところ、昇格のところを獲っていきたくて考えています。

Yasuaki OSHIMA

「ここで成功したい」という 野心を持った選手が躍動する



スポーツダイレクター 竹元 義幸

Q. 過去2シーズンをどう評価し、大島康明監督を招聘したのでしょうか。

A. 結果として2シーズン連続で8位でしたので、昨シーズン終盤のいい形と直近の2年間で積み上げてきたものは残しつつ、それを継承してブラッシュアップしてもらえ人選をして、大島監督を招聘しました。いろいろな監督をプロファイルしていく中で、FC岐阜が目指すサッカーのプレーモデルをどう構築していくのか、それを元にどういった監督に引き継いでもらうか、リストアップしながら、最終的に大島監督にお願いしよう。クラブとしての方向性を持続させていくという意味で選択しました。FC岐阜に一番共感してもらえ、そしてサッカーの色もここまでの岐阜に似ているような方ということで、入念に話し合いを重ね、サッカー以外のところの話し合いもたくさんして、2025年はこの形で進めていこうと意見が合致して決まりました。

Q. 今シーズンの人選で重要視したところは？

A. チームづくりの土台となるリレーションシップ（結びつき）が重要で、そのために、協調して関係性を築くための人選をおこないスタッフを揃えました。スタートを見る限りではいいリレーションがとれていると思います。ただ最初は選手みんながフレッシュな気持ちで来てくれるものなので、これを今後、苦しくなってきた時にもどう継続していけるかが一番重要です。また、選手、監督、コーチが密にコミュニケーションをとるような環境づくりを推進。チームを団結させていく方向に持っていくとしています。そこは感情論ではなく、仕組みを整えることで集団としてまとまるという意識が揃うように制度面から働きかけ、課題の克服を狙いました。

Q. スカッドの組み方にはどういう狙いがありますか。

A. このクラブ、このチームでプレーをしたい、そこで勝ちたい、自分の価値を高めたいという意識も考慮し

て、選手たちに残ってもらい、あるいは来てもらったという形になります。同時に「とても強い情熱を持っているメンバーじゃないとやっていけない」と伝えさせてもらい、常にチームであろうとする重要性を徹底しています。J2に戻り、J1に行こうとするなら、その野心を行動で示していける集団を作らなければいけないという観点でかなりプロファイルしました。昨年後半の10試合ぐらいの主力はほとんど残り、他クラブからいい選手を獲得して、ここで成功したいという野心を持ち、何かを為すまで満足しない心構えでいられる選手かどうかということは、かなり重点的に考えたところです。自分の責任と役割を果たすよう最後の最後まで努力し続けることができるかどうかですね。サッカーの面では、去年はインテンシティが低く、そこを起点に様々な弊害が出ていたので、高い強度でプレーできる選手かどうかということも重視しました。今年は最初からずっとインテンシティが上がってきているので、みなさんに躍動する選手の姿を見せられるんじゃないかなと思います。

Q. 星勘定をどう想定していますか。

A. 当然1位と2位の自動昇格を狙っていきます。また、仮にどこかで下方修正しなければいけない時にはやはりJ2昇格プレーオフ進出に必要な6位以内を視野に入れていきます。いずれにしても昇格するラインには必ずないといけないですし、あくまでも優勝して昇格することが目標です。開幕から第5節までに2位以内に入らないと最終順位で1位に入る可能性が低くなる。スタートダッシュの成功と、編成がチーム力を決めるとしています。あとは選手、監督、コーチ、スタッフのリレーションを高め、勝算を100パーセントに近づけていければと考えています。

Yoshiyuki TAKEMOTO

2025



J3 NEWCOMER TEAMS

2025 SEASON

新規参戦チーム紹介



TOCHIGI CITY



栃木シティ

2024 SEASON

JFL 1位

監督》今矢 直城 ホームスタジアム》CITY FOOTBALL STATION 栃木県

2024シーズンの栃木シティはJFLでも頭ひとつ抜けた存在。練習試合では次々にJクラブを撃破して話題となっていたが、その原動力はおそらくよく整備された守備戦術だろう。J1相手にいい状態でプレスをかけてボールを奪い、攻撃につなげていく様子には迫力がみなぎっていた。そのよく鍛えられたチームを指揮していた今矢直城監督が契約を更新、コーチングスタッフもほとんどが留任したほか、所属選手も多くが契約を更新している。もともと完成度が高かったチームをさらに維持発展させようという狙いのようだが、ここにギラヴァンツ北九州の乾貴哉、プリズベン ロアー FCの加藤カレティ丈、いわてグルージャ盛岡の都倉賢を加えて戦力に厚みを増しているところが非常に不気味だ。さらに同県内のライバルである栃木SCから森俊貴を獲得したことは大きな話題となっている。栃木SCのアカデミー出身で、大学経由で加入したトップチームでも栃木SC一筋。J3を知る乾と都倉、J2から降格の栃木SCをよく知る森の獲得は、長いシーズンを戦う上でプラスに働くのではないかと。しかしやはり栃木シティの強みは今矢監督。オセアニアと欧州で現役時代を過ごし、早稲田ユナイテッドを皮切りに指導者や通訳として活動しつつ獲得してきたフットボールについての知見は信頼のおけるもの。関東リーグとJFLを突破してきた勢いでJ3を席卷しそうだ。

KOCHI UNITED SC



高知ユナイテッドSC

2024 SEASON

JFL 2位

監督》秋田 豊 ホームスタジアム》高知県立春野総合運動公園陸上競技場 高知県

このオフ、高知ユナイテッドSCではFC岐阜から期限付き移籍していた和田侑樹を含め10人が退団。1月7日までにヴァンフォーレ甲府の水野颯太など7人を期限付き移籍または育成型期限付き移籍で獲得し、昨年所属していた田辺陽太の育成型期限付き移籍期間を延長したほか、完全移籍で3人を獲得。そのうちの1人が2020年の事故で両眼の視力をほとんど失った松本光平ということが話題を呼んでいる。あとの2人はいわきFCの杉山伶央とガイナレ鳥取の長井響。長井は2024シーズンをJFLの沖縄SVへの期限付き移籍で過ごしたため、対戦相手として高知を知っていたことはメリット。知名度は高くないがJリーガーを一定数確保、これがJリーグ初挑戦となる松本の獲得にも踏み切るなどチャレンジングな姿勢を見せ、J3初参加の気概を示している。コーチングスタッフに眼を向けると、昨年高知をJ3加盟に導いた吉本岳史前監督が退任。昨年までいわてグルージャ盛岡の社長だった秋田豊監督、同じく岩手のGM兼強化部長や監督を務めた神野卓哉ヘッドコーチを招聘し、J3に関する情報収集に抜かりはない。また昨年は高知でヘッドコーチを務めていた立田将大コーチが役職名を変えて契約を更新して継続性も保ち、かなり考え抜かれた人事となっているようだ。JFLまでとはチームも大きく変わり、侮れない相手となるのかもしれない。

TOCHIGI SC



栃木SC

2024 SEASON

J2 18位

監督》小林 伸二 ホームスタジアム》カンセキスタジアムとちぎ 栃木県

J3に降格したものの2024シーズンの途中から就任した小林伸二監督が契約を更新、また度々コンビを組んできた右腕の長島裕明ヘッドコーチも契約を更新し、継続性と一貫性、そして豊富な昇格経験を重視した体制で、一年でのJ2復帰を目論む。小林監督は過去に大分トリニータ、モンテディオ山形、徳島ヴォルティス、清水エスパルス、ギラヴァンツ北九州で5回の昇格を経験した猛者中の猛者。セレッソ大阪でJ1の優勝争いも経験し、年間を通してのマネジメントで絶大な力を発揮する。また長島ヘッドコーチはかつて岐阜にも在籍した指導者。穏やかな人柄でチームの結束に貢献しそうだ。そして昨年は茂木秀が負傷離脱するなか、後藤大輝や上田智輝を輝かせた上杉哲平GKコーチが岐阜から移籍することも目につく点。コーチングスタッフは強力だと考えたほうが良さそうだ。選手に眼を転じて丹野研太、ラファエル、平松航、神戸康輔、矢野貴章といった主力が契約を更新し、育成型期限付き移籍で川崎フロンターレの五十嵐太陽を獲得するなど抜かりはない。愛媛FCなどと共にJFLで一時代を築き、年々その地位を高めてきて独自の存在感を放つに至っている栃木SC。強化スタッフを中心に、一年でのJ2復帰を成し遂げようとする熱量の高さを感じる2025シーズンだ。

KAGOSHIMA UNITED FC



鹿児島ユナイテッドFC

2024 SEASON

J2 19位

監督》相馬 直樹 ホームスタジアム》白波スタジアム 鹿児島県

2023シーズンのJ3で2位となり、J2に昇格。この時の指揮官が誰だろう、2025シーズンからFC岐阜を率いることとなった大島康明監督だった。元岐阜の田中秀人が現役を終えスタッフとなったクラブであり、2024シーズンには岐阜からドカ チャールズと大野哲煥が加入、あるいは昨年、この鹿児島に期限付き移籍で加入していた左サイドバックの外山凌が今年は岐阜にやってくるなど、岐阜との縁が深いクラブだ。19位に終わり一年で降格が決定、J3へと戻ってきた2025年は現役時代、鹿島アントラーズと日本代表でならした相馬直樹監督兼GMが率いる。退団者23人には有田光希、藤本憲明、井林章、端戸仁、木村祐志という名の通った選手が含まれ、思い切ったチーム改造を施すもようだ。東京ヴェルディから河村慶人、レノファ山口FCからヘナン、ロアッソ熊本から昨年は岐阜に期限付き移籍で加入していた岡崎慎を獲得するなど補強にも力が入っていて、優勝争いの一角に食い込みそうな気配が漂う。FC町田ゼルビアを率いていた時には一定の評価を得ていた相馬監督だが、その後は鹿島と大宮アルディージャで途中就任が続き、手腕を発揮しきれなかった印象。それだけにGMを兼ねるこの鹿児島でどこまで強力な存在感を醸し出すのか、人々の耳目を集めそうだ。

THE SPA GUNMA



ザスパ群馬

2024 SEASON

J2 20位

監督》沖田 優 ホームスタジアム》正田醤油スタジアム群馬 群馬県

J2最下位でJ3に降格してきたザスパ群馬は北海道コンサドーレ札幌の沖田優前コーチを新監督に招聘。また2024シーズン限りで現役を引退した細貝萌さんが代表取締役社長代行兼GMに就任（※2025年4月の株主総会をもって正式に社長就任の予定）し、現場もフロントも新たな体制で次のシーズンを迎えることになる。18人の選手が退団し、選手層も大きく入れ替わるだけに、どう転ぶかは全くの未知数。予想を立てにくい集団となった。12人の選手が新たに加入したほか、ブラウブリッツ秋田から期限付き移籍で加入していた小柳達司が完全移籍に移行、玉城大志がガイナレ鳥取への期限付き移籍から復帰、そして2024シーズンはいわてグルージャ盛岡に育成型期限付き移籍で加入していた安達秀都がやはり育成型期限付き移籍で加わっている。秋田から青木翔大が完全移籍加入という形で4年ぶりに復帰するというグッドニュースはあるものの、やはり契約を更新した河田篤秀や風間宏希など、J1やJ2で場数を踏んできた既存の選手のほうが頼りになるのではないかと。昨シーズンは芳しくない成績で20位に沈んだだけに危機感は強いはず。昇格するに留まらず組織を建て直さなければと、クラブ丸ごと生まれ変わる覚悟で臨んでくれるのであれば、その気概に警戒が必要となる。

2025 SEASON FC GIFU TOP TEAM PLAYERS

①生年月日 ②身長/体重 ③前所属 ④出身地

MF

GK

FW

DF

1

茂木 秀

- ①1999.1.15
- ②195cm/90kg
- ③FC今治
- ④神奈川県

Shu MOGI

21

セランテス

- ①1989.10.24
- ②184cm/74kg
- ③FC今治
- ④スペイン

Sera YAMAGUCHI

50

山口 敏良

- ①2002.10.9
- ②193cm/86kg
- ③中京大学
- ④愛知県

SERANTES

6

後藤 大輝

- ①1996.6.14
- ②185cm/79kg
- ③ギラヴァンツ北九州
- ④埼玉県

Daiki GOTO

7

井川 空

- ①2000.1.15
- ②180cm/74kg
- ③フジターノ岡山
- ④北海道

Sora IGAWA

8

中村 仁郎

- ①2003.8.22
- ②165cm/59kg
- ③松本山雅FC
- ④大阪府

Jiro NAKAMURA

10

北 龍磨

- ①1998.4.16
- ②175cm/72kg
- ③アスレクラロ沼津
- ④京都府

Ryoma KITA

14

生地 慶充

- ①1998.4.2
- ②177cm/70kg
- ③筑波大学
- ④東京都

Yoshiatsu OJUI

39

泉澤 仁

- ①1991.12.17
- ②165cm/65kg
- ③RB大宮アルディージャ
- ④千葉県

Jin ZUMISAWA

3

甲斐 健太郎

- ①1994.11.1
- ②181cm/65kg
- ③いわてグルージャ盛岡
- ④大阪府

Riku NOZAWA

4

野澤 陸

- ①1998.12.7
- ②185cm/80kg
- ③ヴァンフォーレ甲府
- ④栃木県

Kentaro KAI

5

石田 峻真

- ①1996.6.21
- ②168cm/65kg
- ③いわてグルージャ盛岡
- ④静岡県

Ryoma ISHIDA

23

萩野 滉大

- ①2000.6.20
- ②177cm/70kg
- ③法政大学
- ④愛知県

Kodai HAGINO

15

山田 直輝

- ①1990.7.4
- ②168cm/66kg
- ③湘南ベルマーレ
- ④埼玉県

Naoki YAMADA

16

松本 歩夢

- ①1998.4.28
- ②179cm/68kg
- ③関西大学
- ④大阪府

Ryo NISHITANI

19

西谷 亮

- ①2004.1.10
- ②180cm/69kg
- ③東京ヴェルディ
- ④神奈川県

Ayumu MATSUMOTO

22

箱崎 達也

- ①2002.8.13
- ②170cm/66kg
- ③大阪学院大学
- ④大阪府

MUN Inju

28

文 仁柱

- ①1999.8.22
- ②167cm/63kg
- ③ガイナレ鳥取
- ④埼玉県

Tatsuya HAKOZAKI

26

大串 昇平

- ①2002.9.21
- ②170cm/64kg
- ③京都産業大学
- ④兵庫県

Shohei OGUSHI

33

キム ユゴン

- ①2006.3.28
- ②184cm/80kg
- ③FCソウルU-18
- ④韓国

KIM YU GEON

37

寺阪 尚悟

- ①2004.6.6
- ②184cm/81kg
- ③ヴィッセル神戸
- ④兵庫県

Shogo TERASAKA

55

外山 凌

- ①1994.7.29
- ②176cm/72kg
- ③鹿児島ユナイテッドFC
- ④東京都

Ryo TOYAMA

11

佐々木 快

- ①1998.10.20
- ②179cm/75kg
- ③ヴァンラーレ八戸
- ④青森県

Kai SASAKI

17

長井 結矢

- ①2003.2.26
- ②184cm/70kg
- ③中部大学
- ④愛知県

Yuya NAGAI

24

栗飯原 尚平

- ①1996.5.26
- ②178cm/75kg
- ③ロアッソ熊本
- ④北海道

Shohei AIHARA

27

横山 智也

- ①2000.9.1
- ②167cm/63kg
- ③岐阜協立大学
- ④岐阜県

Tomoya YOKOYAMA

32

オウエイウィリアム

- ①2004.4.19
- ②190cm/80kg
- ③柏レイソル
- ④神奈川県

OWIE William



FC岐阜の全ホームゲームに出演し、スタジアムを華やかに盛り上げます。皆様のご来場をお待ちしています。

トリプルジー

GGG

8期メンバーの紹介



オレンターツアー 第1弾のお知らせ

第8節 **4.5(土) 14:00 KICK OFF**
vs 奈良クラブ

出発日 **4月5日(土)** 試合会場 **ロートフィールド奈良**

旅行代金(大人・小人同額) 会員(おひとり様) **7,000円**
非会員(おひとり様) **10,000円**

申込締切 **3月24日(月) 17:00まで**

募集人員 **40名様(最少催行人員30名)**

添乗員 **同行いたしません ※後援会事務局スタッフが同行します**

バス会社 **岐阜バス又は同等クラス ※バスガイドは乗務いたしません**

旅行代金に含まれるもの **貸切バス代、有料道路代、駐車料金**
※チケット代金は含まれておりません

スケジュール

JR岐阜駅(じゅうろくプラザ前バス駐車場)	岐阜県庁前(OKBアリーナ西側)
7:50集合 8:00頃出発	8:10集合 8:20頃出発
大垣西IC(東海環状・名神高速・京滋・第二京阪・新名神・京奈和)	木津IC
[途中休憩] 草津PA(10:00/10:20)	
vs 奈良クラブ 試合会場:ロートフィールド奈良	
11:30頃到着	14:00 KICK OFF 16:30頃出発
木津IC(京奈和・新名神・第二京阪・京滋・名神高速・東海環状)	大垣西IC
[途中休憩] 草津PA(17:40/18:00)	
岐阜県庁前	JR岐阜駅
19:30頃到着	19:50頃到着



■後援会への入会・その他お問い合わせ先

FC岐阜後援会事務局(業務委託:株岐阜文芸社)

〒501-2517 岐阜市三輪ふりんとびあ13番地の1

TEL 080-8089-1990 FAX 058-229-6131 e-mail kouenkai@fc-gifu.com

オレンターPRESS Vol.32

発行:FC岐阜後援会 デザイン・印刷:株岐阜文芸社

ライター:後藤勝 写真:©Kaz Photography/FC GIFU